

# 長池公園のカタクリ / カタクリ七不思議



長池公園のカタクリは、1970～80年代にかけて、多摩ニュータウンの開発予定地となっていた別所や南大沢の自生地から、市民や行政の保護活動により移植され、この地に根付いたものです。カタクリの祖先は、氷河期の頃、北から南へ分布を広げましたが、地球全体が温暖化した現在、涼しい場所だけに生き残ってきた遺存的な植物と考えられています。その特徴的な生活史や生態を、以下「カタクリ七不思議」にまとめてみました。これを読めば、今日からあなたもカタクリ博士。カタクリの花がもっと愛しくなるにちがいありません！

## ①生活は一年のほとんどが土の中！

カタクリが地上に葉や花茎を出しているのは3月中旬から5月中旬までのたった2ヶ月。なんと、1年のうち10ヶ月間は地下だけの生活なんです。



↑出典：高橋喜平 (1995) カタクリの里。講談社

## ②6枚の花びらは寒さと雨よけのウィンドブレーカー！



カタクリは、気温の低い日や雨の日には6枚の花弁（花被片）を開かず、傘のように閉じてしまいます。大切な雌しべや雄しべなど、タネのできる器官を、雨や寒さから守っているのですね。

## ③花のギザギザマークは虫へのサイン！

花びらの入口にあるギザギザマークは、蜜を吸いにくる昆虫に、「この先においしい蜜がありますよ！」と、ごちそうのありかを教えるサインだと考えられています。カタクリは他の個体の花粉を運んでくれる昆虫（マルハナバチなど）の働きがかかせないのです。



## ④エライオソームはタネを運んでくれたアリへのごほうび！



エライオソーム

カタクリのタネのまわりのエライオソーム（付属物）には、栄養分の高い物質が含まれています。アリはこれをエサにしようと自分の巣に運び、付属物だけを食べて、タネを巣の外に捨ててしまいます。すみかを広げるためのカタクリの戦略なのですね。

## ⑤ヒョロヒョロのネギみみたいな1年生！



カタクリのタネは落ち葉の中で夏～冬を過ごし、春先芽生えますが、最初の葉は細い糸のようです。でも、2年目からは丸味を帯びただ円状の形になり、毎年少しずつ大きい葉を出すようになります。

## ⑥タネから大人になるまでがなが～いカタクリ！

カタクリは、発芽から咲くまでなんと6～8年ほど年数がかかります。発芽したタネは地下部に鱗茎をつくり、毎年深くにもぐるように生長していき、地上部に2枚の葉っぱを出すようになります。1株の寿命はだいたい40～50年とされています。



出典：高橋喜平 (1995) カタクリの里。講談社→

## ⑦カタクリは食べられる？

(公園のカタクリは食べないでくださいね！)

カタクリの鱗茎にはデンプンが多く含まれ、食用になります。若葉や花は、おひたしや吸い物などに利用されることがありますが、薬用植物でもあり、食べ過ぎに要注意です。なお、現代の片栗粉は、カタクリではなく、ジャガイモから精製されたものです。

